

music club 同好会

第一看護科(39回生)2年生 荒木 利未

はじめまして! music club 同好会です。私たちは水曜日の放課後、皆で集まり楽器を演奏しています。私たちの一番の目標は学校祭での発表です。学校祭にむけて自分たちで演奏したい曲を決めその曲を中心に練習しています。楽器はピアノとアコースティックギターを中心に演奏しています。時にギターは初心者の方が多く、先輩から後輩に教えてもらいながら弾けるようになっていきます。最初は触ったことがないギターで一曲引けた時の喜びはとて大きいです!一人で楽器を演奏するのと比べると合奏は曲らしくなり、心がひとつになった達成感があり、同好会に入って良かったと心から思えるときです。また、学年が違うとなかなか交流するきっかけがないですが、music club 同好会を通じて仲良くなり、先輩から後輩へ学習・実習のアドバイスを聞くこともできます。現在、部員は7名ですが、学校祭に向けて曲作りにはげみ、本番を盛り上げ楽しいものになるように努力しています。これからも music club 同好会をよろしくお祈りします。



在校生の演習風景

第一看護科(39回生)2年生 中野 良美

入学当初は、知り合いが一人もいない環境と片道1時間以上の電車通学に慣れていなくて、この学校生活に馴染むことができるのかと不安で一杯でした。しかし、クラスメイトが和気あいあいとしていたので徐々に馴染むことができ、通学に時間がかかるのは自分だけではないので頑張ろうと思いました。また、この学校には、社会人の方も多いためいろいろな経験談が聞けて楽しいです。

1・2年生では、主に看護に必要な知識と技術について学びます。基礎看護技術では、学生同士で看護師、患者の役割設定をし、呼吸音や心音が聴取できるフィジカルアセスメントのシミュレーションモデル教材を使って身につけていきます。このような教材を使って聴取することで、実際の音の違いを実感することができます。学ぶことは盛りだくさんですが、どれも必要なことなので投げ出さずにクラスメイトと励まし合いながら習得していきたいです。



公開講座

「看護の知識や技術を広く社会に紹介し、県民の健康や看護に対する関心を高める」ことを目的とし平成19年より公開講座を開催しています。

今年度のテーマは「あなたに伝えたい『看護の技』-無理なくできる移動-着替えの技術-」です。

日時は9月26日(日曜日)13:30~16:00、定員は30名です。是非ご近所の方にお声をかけてください。

愛知県立総合看護専門学校のホームページアドレス
http://www.pref.aichi.jp/imukokuho/sogo-kango/index.html



編集後記

投稿して頂いた卒業生の皆様、学校の先生方はじめ在校生の方々のご協力により、会報第3号を会員の皆様にお届けすることができました。

今後も様々な場所で活躍している卒業生の近況をお伝えしていきたいと思ひます。

ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

編集委員:鈴木邦子、江上菊代、三澤靖子、黒木留美子、前田洋子、田邊美穂



総看だより

第3号

愛知県立総合看護専門学校
同窓会会報
2010年8月1日

同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。役員・会員の皆様方のご協力により総看だよりも3号の発行になりました。卒業生の皆様の近況を目にされ、懐かしく感じられた方もおみえになったのではないのでしょうか。

卒業生の皆様が様々な分野で活躍されていることを知り、看護職の活躍の場が広がっていることを実感いたします。今年度の診療報酬の改定でも、看護職の活躍に点数がつく部分が拡大しています。会員の皆様の近況を伝え親睦を図るとともに、学生の皆様方に看護の素晴らしさを伝える一助になればと思います。学校祭の「卒業生による相談コーナー」には年々若い卒業生の方々が回答者として参加して下さるようになりました。また、役員も若い方にも引き受けていただいています。若い方々の参加で同窓会活動がより身近なものになればと思っています。

同窓会の皆様の御活躍と御健勝をお祈りいたします。

同窓会会長 鈴木邦子



新カリキュラムの教育がスタートしました。

同窓会会員の皆様には各分野でますますご活躍のことと思います。

さて、看護教育は、新人看護職員の臨地実践能力の低下に早急な対応が必要ということで、約10年ぶりにカリキュラムの改正がありました。改正のポイントは、教育内容の充実と看護実践能力を強化するものであり、新たに知識と技術を統合する分野が創設されました。また、卒業までに習得しておく必要がある看護技術の種類と到達度も初めて示されました。今年度は新カリキュラム2年目となり、本校においてもより臨床に近い形で教育を行い各分野での教育内容の充実が学校全体で取り組んでいるところです。

また、本校付設の看護研修センターも10種類の研修会を開催し、多くの看護職員の方々に活用していただいております。引き続き研修内容の充実が力を注いでまいりますので、今後とも同窓会の皆様の温かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校長 大場 雪



平成22年度 同窓会総会のご案内

日時:平成22年 11月6日(土)
13:00~15:30

会場:がんセンター中央病院
国際交流センター大会議室

会費:1,000円

(日 程) 12:30~13:00・・・受付
13:00~13:45・・・総会
13:45~14:00・・・休憩
14:00~15:30・・・講演

(講演内容)

テーマ:介護の学びを一人芝居に

《講演者プロフィール》

劇団四季付属演劇所(三期生)卒業後、劇団員となり『オンディーヌ』『ハムレット』『アプローズ』など数々の作品に出演。退団後は東京ミュージカル、自由劇場などで活躍した後、一時演劇活動を休止。5年後再び、舞台に復帰し、劇団四季『人間になりたかった猫』『美女と野獣』、みなと横浜演劇所『海賊〜同窓会心のこころ』、アイドルフィン主催『定時制ハイスクール』(天国に行ったフル)等、多くの舞台活動の傍ら、ヘルパー2級、バリケーションワーカーの資格を取得。現在は、『星屋の旗』『再草履曲』など介護をテーマにした一人舞台をライブワークとして定期的に取り組み、NHKラジオ深夜便「列島インタビュー」ではく体験が生んだ介護一人芝居として取り上げられた。『星屋の旗』は東京初演に続き横浜、津市で再演している。



さつき里香(さつきりか)

★★出席される方は別添の返信はがきを郵送してください。★★

看護学修士を修得しました

第一看護科 平成元年度卒業
第16回生 伊藤香代

看護師、看護教員を経て昨年、看護学の修士号を修得しました。学ぶ楽しさを看護学生に教えられ、自らのキャリアアップを目指したのは39歳の時でした。

まさに人生最大のチャレンジです。苦手だった英語を基礎から学び直し、寝る間を惜しんで本と向き合いました。大学院は仕事との両立で、とにかくあっという間に2年が過ぎましたが、一日一日が宝のような日々でした。

修士課程で得たものは「無知である自分」を知りました。だからこそ、自分が何を成すべきか分かるようになりました。これからの看護人生、頑張ります。



JPTECやICLSのインストラクターをしています

第二看護科 平成9年度卒業
第25回生 塩山 操

卒業後、名古屋第二赤十字病院の救急病棟へ配属され、その後、二児の母となった今でも、救急外来で毎日慌しく過ごしています。救急外来では、毎日が驚きの連続ですが、協力的な旦那様や母、元気な子供達、育児に理解のある上司や、モチベーションの高い同僚達に助けられ、救急としての第一線で続けられていることに、日々誇りと感謝を感じています。最近ではJPTECやICLSのインストラクターや学会発表もさせていただき、そういった場で総看の同級生と会うこともあり助まされています。



卒業後、名古屋第二赤十字病院の救急病棟へ配属され、その後、二児の母となった今でも、救急外来で毎日慌しく過ごしています。救急外来では、毎日が驚きの連続ですが、協力的な旦那様や母、元気な子供達、育児に理解のある上司や、モチベーションの高い同僚達に助けられ、救急としての第一線で続けられていることに、日々誇りと感謝を感じています。最近ではJPTECやICLSのインストラクターや学会発表もさせていただき、そういった場で総看の同級生と会うこともあり助まされています。



呑めない私が…東奔西走!?

第一看護科昭和56年度卒業
第9回生 林 恵子

現在私は、当院（NTT西日本東海病院）の院長が発起人となって立ち上げた「愛知アルコール連携医療研究会」の世話人をしています。名前を聞いて「あっ！聞いたことがある」と思われた方も何人かお見えになるのではないでしょうか？この研究会は、アルコール関連疾患の連携医療や、研究を組織的に取り組み、その治療や援助技術の向上、発展に寄与することを目的に、平成18年3月に様々な職種の方が集まり発足致しました。

一人でも多くの人たちに「連携医療の重要性」を理解してもらうべく、愛知県全域を院長や研究会メンバーと共に東奔西走しながら、各地域の病院をお借りして研究会や介入講座を開催しています。皆さんの施設にお邪魔した時は是非、お声を掛けてくださいね。



58歳からのチャレンジ

公衆衛生看護学科 昭和46年度卒業
第1回生 岡本幸子

結婚、出産後、40歳から訪問看護、保健センター、介護保険制度の権利擁護専門員を経て、平成17年に高浜市で定員15名の小さなアイサービスセンターを開業しました。

58歳からのチャレンジです。

家庭的な雰囲気の中、スタッフと共に23~25名で大家族のように過ごしています。今年で早5年目となり、思った事は歳を考えず、やってみるものだと実感しています。

人生の大先輩の方々と共に過ごしながら、残された人生を大切にしていきたいと思っています。



私たちが現在キャリアアップ中です!

皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得し仲間ができました

第一看護科 昭和58年度卒業
第11回生 榊原由美子

私も、卒業してもう25年が過ぎました。平成22年1月4日に永年勤続職員としての表彰を受けました。総合看護専門学校時代にお世話になった、愛知県がんセンター一筋で今まで頑張ってきました。

この間色々な事がありました。中でも、一番大きかったのは、皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得したことでしょうか。少々年を取ってからの学習は大変でしたが、日本中と一緒に頑張った仲間・同志ができました。今はこの資格を活かして、褥瘡・ストーマケアの実践・指導・教育に助んでいます。後輩の小島瞳さんが同じ資格を取得し、共により良いケアを患者さんに提供できるように頑張っています。

正直しんどい時もありますが、やりがいがあり、充実した日々を過ごしています。

手術室で頑張ってます

第一看護科 平成17年度卒業
第33回生 高橋慎吾

手術室へ異動し、2年目も終わろうとしています。今、病院が統合という状況で大変ですが、少しずつ出来ることも多くなり、いろいろな手術にも入れるようになってきました。こうした手術に入るからには目標を高く持ち、医師と連携し、安全かつスムーズに手術が進行するためにはどうすべきかを、先輩の看護や自己の学習を基に考えながら一人前になるために日々努力しています。



褥瘡対策チームのメンバーです。私の左にいるのは、院内で一緒に活動している、第一看護科28回生の小島瞳さん(旧姓野中)です。



乳がん看護認定看護師となって

第四看護科 平成10年度卒業
第27回生 高木礼子



卒業後、愛知県がんセンター中央病院に勤務し、乳がんを中心とした病棟で8年間乳がん看護に携わりました。多くの乳がん患者との関わりの中で、患者・家族が抱えている複雑で解決困難な問題に直面し、より専門的知識・技術が必要であると実感しました。そこで、乳がん看護認定看護師を目指しました。研修では全国から志を共にする30人の仲間と出会い、楽しい研修を体験しました。

平成20年乳がん看護認定看護師資格取得し、日々、乳がん患者・家族に対し診断後の心理的サポート、治療選択のサポート、手術や治療によるボディイメージの変容に対するケア等々その人らしい生活が送れるようにと支援しています。今後も乳がん看護認定看護師として患者・家族の支えとなるよう活動していきたいと思っています。

